

# 北区岩淵周辺地区かわまちラボ-第1回-

## 議事要旨

日時：令和7年12月19日（金）14:00～

場所：荒川下流河川事務所1階 アモアホール

### 1. 開会

### 2. 出席状況の報告

出席者 ラボメンバー：19名（座長・副座長含む）

事務局（北区まちづくり推進課）：6名

### 3. 議事

#### （1）今後の取組みについて

○資料説明【資料：1～5頁】

○荒川下流河川事務所より、知水資料館-amoa-の活用に関する外部からの要望を紹介

- ・現在、知水資料館「amoa」の3階を地域交流スペースとして開放している。
- ・先日、外部より「地域貢献を目的として、地域住民を集めたカードゲーム大会を開催したい」との要望があった。
- ・事務所としては、新たな層に来館いただく好機と捉え、資料館の展示物の見学も併行して行ってもらえるよう、実施に向けて検討中である。

○質疑応答：なし

#### （2）本日の内容（まち歩き）について

○資料説明【資料：6～9頁・まち歩きMAP】

○質疑応答：

- ・かわまちラボ参加者の情報共有ツールは今後できるのか。資料を毎回見るのは煩雑であることから、どこかに情報が集積されていることが望ましい。

（事務局）

- ・slack等含めた情報共有ツールは今後検討する。本日のまち歩きの写真はその場で共有する。

#### （3）かわまちルートのデザインワーク①（意見交換）

○資料説明【資料：10～17頁】

【A班発表】

- ・岩淵エリアは、宿場町の歴史や河童伝説など、歴史的資源が重要であることが共有された。活用案として「河童のサインをたどると川にたどり着く」などのアイデアが挙げられた。

- ・公共空間が不足している現状を踏まえ、工場跡地、寺院の未利用地、空き家などを活用・産業化し、持続可能なモデルを構築していく必要性が挙げられた。
- ・案内図を効果的に活用し、エリア内の回遊性の向上に役立てていくことが挙げられた。

#### 【B班発表】

- ・地域資源の間に存在する「隙間」をどう埋めるか、すなわち公共空間の活用が重要な課題であることが共有された。
- ・その解決策の1つとして、「シェアリングエコノミー（民間の遊休資産や地域資源を外部に開放すること）」が挙げられた。

#### 【総評】

(座長)

- ・岩淵のまちの歴史をひも解くと、勝海舟のゆかりや地域の宿場町の文化が根強く残る神社、岩淵と志茂に共通するキーワードが重要である。その一つとして、河童があり、その他にも特徴的な地域の歴史が多くある。
- ・まちなかの「隙間」を見つけることにより、新たな工夫ができるのでは。今後さらに検討を深めていきたい。

(副座長)

- ・本日の取組みで、班内でメンバーの考え方や地域の情報が共有できた。このような機会を積み重ねることで、目指すべき大まかな方向性を共有できると良い。

○事務局で本日の結果を整理し、後日メンバーに案内する。

## 4. 今後のスケジュールについて

○資料説明

- ・第2回の活動は、3月16日の週で調整している。詳細な日程については、後日連絡させていただく。⇒3月18日（水）午後で決定

○質疑応答　：　なし